

～蕪村の作品から

### さみだれや大河を前に家二軒

単純明快で有りながら、よく鑑賞して見ると、解りやすくそれでいて深い意味を持った、現代にも通じる滑稽俳句ではないかと思う。  
近頃の難しい言葉・文字を使った俳句を作る方々にもう一度この俳句を味わってもらいたい。

～三鬼の作品から

### 恐るべき君らの乳房夏来る

私はこの俳句を鑑賞していると、類想句になるかも知れませんが、色々に言い換えが出来事に気付かせる。言い換えを誘う俳句は内容が豊富なのかも知れない。作者は終戦直後の日本の女性の姿を詠んだと有りますが、現在でも大いに通用する滑稽俳句。

～漱石の作品から

### 叩かれて昼の蚊を吐く木魚かな

盆供養か勤行を詠んだ俳句で、荘厳さの中に滑稽味を持った俳句ではないかと思う。僧侶の後ろに座る檀家の人々が叩くわけにも行かず、蚊がブンブン飛び廻るさまが目につかぶ。

以上の三句が私が見つけた滑稽俳句です。

これらの俳句のように解り易く何かと連想を誘う俳句を目指して精進して行きたいと思う次第です。